

令和6年度
全国学力・学習状況調査
指導方法等の改善計画

呉市立蒲刈中学校
(蒲刈中学校区)

全国平均値との差

	国語	数学
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+5.0	+5.0
令和8年度	—	—
令和7年度	—	—
令和6年度	+5.9	-12.5
令和5年度	+2.2	-7.0
令和4年度	+4.0	-2.4

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

国語 本校 64 % 全国 58.1 % 県 58 % <table><caption>国語の学習状況比較 (推定値)</caption><tr><th>項目</th><th>全国平均</th><th>県平均</th><th>本校</th></tr><tr><td>話すこと・聞くこと</td><td>58.1%</td><td>58%</td><td>64%</td></tr><tr><td>書くこと</td><td>58.1%</td><td>58%</td><td>64%</td></tr><tr><td>読むこと</td><td>58.1%</td><td>58%</td><td>64%</td></tr><tr><td>言葉の特徴や使い方</td><td>58.1%</td><td>58%</td><td>64%</td></tr><tr><td>我が国の言語文化</td><td>58.1%</td><td>58%</td><td>64%</td></tr></table>	項目	全国平均	県平均	本校	話すこと・聞くこと	58.1%	58%	64%	書くこと	58.1%	58%	64%	読むこと	58.1%	58%	64%	言葉の特徴や使い方	58.1%	58%	64%	我が国の言語文化	58.1%	58%	64%	重点課題 ◎文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある（設問3三） （設問3三の正答率44.4%）（全国平均との差-25.4pt） ◇漢字を文章の中で正しく使うことに課題がある。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】
項目	全国平均	県平均	本校																						
話すこと・聞くこと	58.1%	58%	64%																						
書くこと	58.1%	58%	64%																						
読むこと	58.1%	58%	64%																						
言葉の特徴や使い方	58.1%	58%	64%																						
我が国の言語文化	58.1%	58%	64%																						
改善の方策 ◎手書きと1人1台端末を活用し、文字を入力したり書いたりする際にも、漢字がもつ意味に注意して適切に選択するような漢字学習をさせる。また、文章の構成に注意するだけではなく、漢字の字形や音訓、意味や用法に気を付けさせたり、書いた文章を読み返し推敲したりする学習活動も多く設ける。 ◇国語科のみならず、他教科や総合的な学習の時間においても、適切に漢字を用いるように指導する。また、日記など日常的に書いた文章を推敲することや自分の考えが伝わるように工夫する活動を多く設定する。																									
検証 ◎◇2学期期末試験における全国学力・学習状況調査[設問2三] 2学期期末試験における全国学力・学習状況調査[設問3三]の類似問題 （第3学年:11月、第1・2学年:12月）目標65% → 結果72.0% 学年末試験における漢字の使い方に関する問題 （第3学年:1月、第1・2学年:2月）目標70% → 結果70.0%																									
数学 本校 40 % 全国 52.5 % 県 52 % <table><caption>数学の学習状況比較 (推定値)</caption><tr><th>項目</th><th>全国平均</th><th>県平均</th><th>本校</th></tr><tr><td>数と式</td><td>52.5%</td><td>52%</td><td>40%</td></tr><tr><td>図形</td><td>52.5%</td><td>52%</td><td>40%</td></tr><tr><td>関数</td><td>52.5%</td><td>52%</td><td>40%</td></tr><tr><td>データの活用</td><td>52.5%</td><td>52%</td><td>40%</td></tr></table>	項目	全国平均	県平均	本校	数と式	52.5%	52%	40%	図形	52.5%	52%	40%	関数	52.5%	52%	40%	データの活用	52.5%	52%	40%	重点課題 ◎一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解することに課題がある。【関数】（「関数」の領域別平均正答率44.4%）（全国平均との差-16.3pt） （設問4の正答率33.3%）（全国平均との差-29.8pt） ◇図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことに課題がある。【図形】 （「図形」の領域別平均正答率25.9%）（全国平均との差-14.4pt） （設問9(2)の正答率0.0%）（全国平均との差-25.7pt）				
項目	全国平均	県平均	本校																						
数と式	52.5%	52%	40%																						
図形	52.5%	52%	40%																						
関数	52.5%	52%	40%																						
データの活用	52.5%	52%	40%																						
改善の方策 ◎「関数」領域の指導の中で、表・式・グラフを関連付けて理解することができるよう、コンピュータを活用して、傾きや切片の変化によるグラフの移り変わる様子を確認したり、グラフを見て式を求めたりといった活動を行う。 ◇デジタル教科書や具体物を用いて、図形の構成の仕方や図形の性質について考察し、実感を伴いながら図形についての理解を深める指導をする。また、日頃の授業の中で、なぜその解答になったのか、根拠に基づき算数・数学用語を使って説明させる。																									
検証 ◎定期試験における全国学力・学習状況調査[設問4]の類似問題 （第3・2学年:10月、第1学年:12月）目標70% → 結果100.0% ◇定期試験における全国学力・学習状況調査[設問9]の類似問題 （第3学年:11月、第2学年:2月）目標50% → 結果53.8%																									

【来年度に向けて】

各教科に共通した課題は、「知識を関連付けて理解すること」と「思考の過程を整理し新たな性質を見いだすこと」である。学習した内容を関連付けて理解することができるよう、漢字では部首や熟語の構成等に注目しながら整理したり、関数では表・式・グラフの関連をICT機器を活用しながら整理したりした。来年度も知識の関連付けを意識した指導を行い、自分の言葉で内容をまとめ、筋道を立てて説明できるような場を多く設定するとともに、全教職員が課題を意識し、学校の教育活動全体を通じて課題の克服を図っていく。